

第2次安曇野市総合計画 前期基本計画の評価について

(前期基本計画について)

安曇野市では、平成 30 年度から令和 4 年度の 5 年間を計画期間とする「第 2 次安曇野市総合計画 前期基本計画」（以下、「前期基本計画」）を平成 30 年 4 月に策定するとともに、市の将来都市像を「北アルプスに生まれ 共に響き合う 田園産業都市 安曇野」を掲げ、以下の基本目標を達成するため、各種施策を推進してきました。

基本目標名	関連する施策の分野
基本目標 1 「いきいきと健康に暮らせるまち」	健康、医療、高齢者福祉、障がい福祉、生活支援、出産・子育て、人権
基本目標 2 「魅力ある産業を維持・創造するまち」	農林水産、商工、観光、労働・雇用、ブランド
基本目標 3 「自然環境を大切にするまち」	自然環境、生活環境、水環境、ごみ、地球温暖化
基本目標 4 「安全・安心で快適なまち」	防災、治山治水、防犯、土地利用、景観、住環境、水道、移住定住、道路、公共交通
基本目標 5 「学び合い 人と文化を育むまち」	学校教育、青少年、生涯学習、スポーツ、文化・芸術、交流活動
経営方針 「計画の実現に向けて」	協働によるまちづくり、広報・広聴、地域情報化、行財政運営

前期基本計画の期間中においては、令和元年度から発生した新型コロナウイルス感染症（以下、「新型コロナ」）の世界的な流行は、これまでの社会のあり方を一変させ、社会経済活動や人々の生活様式に大きな影響をもたらしました。

このように絶えず変化する社会の中で、市民の暮らしを守り、安曇野市を持続的に発展させるため、令和 5 年 4 月には、令和 5 年度から令和 9 年度の 5 年間を計画期間とする「第 2 次安曇野市総合計画 後期基本計画」（以下、「後期基本計画」）を策定しました。

また、後期基本計画の策定とともに基本構想を見直し、市の将来ビジョン「自然、文化、産業が織りなす 共生の街 安曇野」を新たに掲げています。市民が安曇野市に誇りを持ち、安曇野市に住んでよかったと思えるまちづくりを推進しているところです。

本資料では、前期基本計画の評価について、「市民意識調査の結果」と「施策指標」の 2 点に着目し、評価を実施しています。各施策の詳細（施策に対する各課の「達成状況」、「課題」、「今後の方針」）については、別資料「施策評価シート」を参照ください。

(市民意識調査 概要)

安曇野市では、平成 28 年度から無作為抽出した 18 歳以上の市民 2,000 人を対象に、市政全般に関する市民意識調査（市民アンケート）を実施しています。

※参考：令和 4 年度の回答者数：839 人 回答率 42.0%

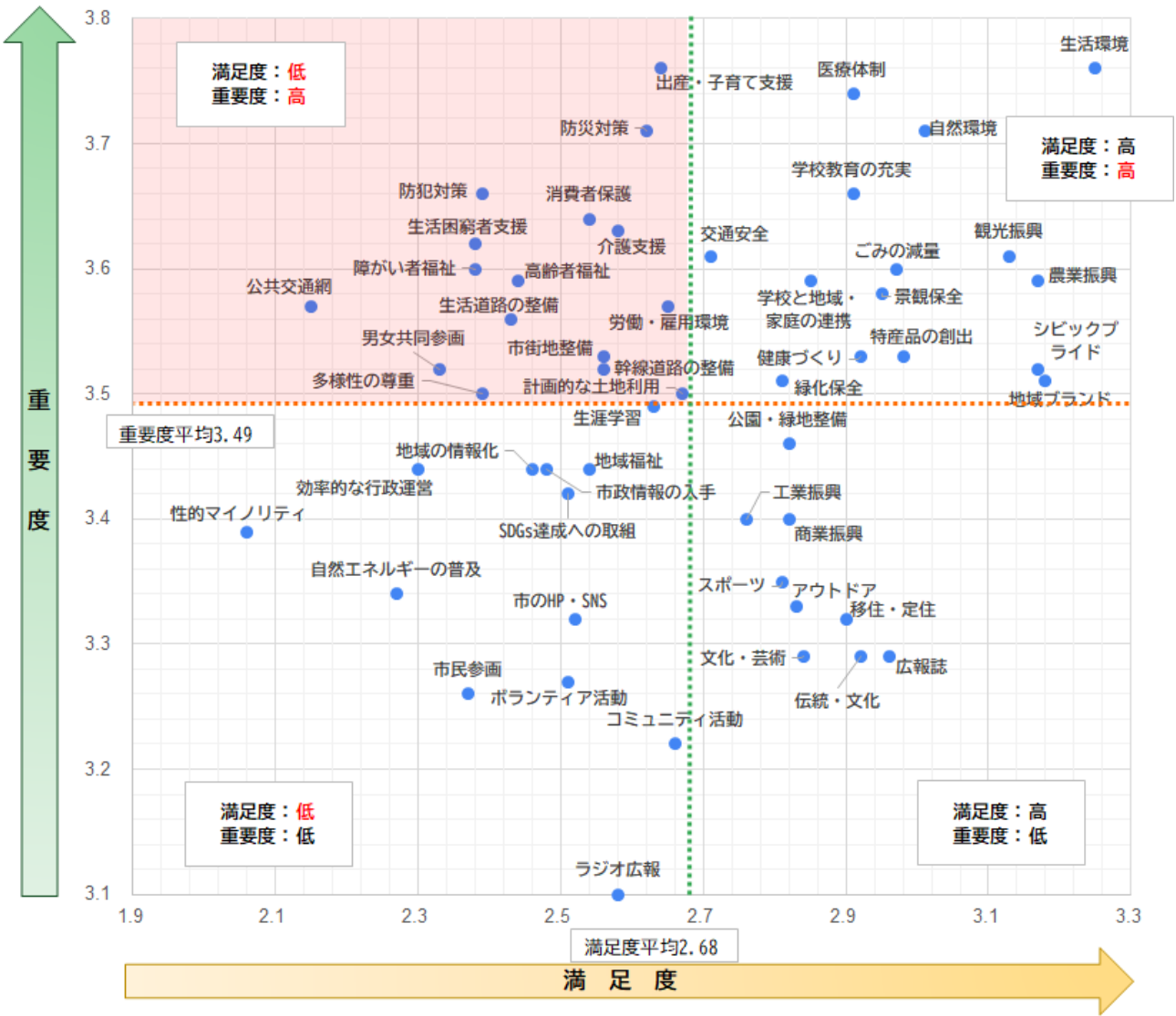
以下には、市の施策の 53 分野に対する「現状の満足度」と「今後の重要度」について調査した結果を載せています。

(市民意識調査 令和 4 年度の満足度と重要度)

令和 4 年度における満足度と重要度の数値を、次ページの散布図に示しました。なお、満足度と重要度は以下のとおり数値化しています。

市の施策分野に対する「現状の満足度」と「今後の重要度」の各選択肢に対して以下のとおり点数を設定。その点数の総和を回答数で除すことで、分野ごとの「満足度」と「重要度」を数値化した。（ここで用いる回答数は「どちらともいえない」及び「無回答」を除く。）				
満足度	満足している	まあ満足している	やや不満である	不満である
重要度	重要である	やや重要である	あまり重要でない	重要でない
点 数	4 点	3 点	2 点	1 点

◆満足度と重要度の散布図



平均値を基準に、「満足度：低」及び「重要度：高」にプロットされた施策分野は、「高齢者福祉」「障がい者福祉」「生活困窮者支援」「介護支援」「出産・子育て支援」「防災対策」「防犯対策」「消費者保護」「労働・雇用環境」「生活道路の整備」「幹線道路の整備」「市街地整備」「計画的な土地利用」「男女共同参画」「多様性の尊重」「公共交通網」の 16 分野となっています。

（市民意識調査 満足度と重要度の推移）

施策分野の満足度と重要度を、基本目標単位で以下のとおり集計しました。なお、前期基本計画策定時（平成 28 年度）に行った市民意識調査の結果と、令和 4 年度に実施した市民意識調査の結果を比較し、各分野に対する満足度と重要度の差（推移）を追っています。

基本目標	H28満足度 ポイント	R4満足度 ポイント	満足度 の差	H28重要度 ポイント	R4重要度 ポイント	重要度 の差	R4重要度－ R4満足度
基本目標 1「いきいきと健康に暮らせるまち」	2.28	2.55	0.27	3.42	3.59	0.18	1.04
基本目標 2「魅力ある産業を維持・創造するまち」	2.61	2.92	0.31	3.42	3.52	0.10	0.60
基本目標 3「自然環境を大切にするまち」	2.70	2.88	0.17	3.39	3.60	0.21	0.73
基本目標 4「安全・安心で快適なまち」	2.34	2.58	0.24	3.48	3.58	0.10	0.99
基本目標 5「学び合い 人と文化を育むまち」	2.52	2.80	0.28	3.28	3.36	0.07	0.56
経営方針 「計画の実現に向けて」	2.20	2.46	0.27	3.27	3.35	0.08	0.88
平均	2.44	2.70	0.26	3.38	3.50	0.12	0.80

◆満足度の推移

満足度の差（推移）をみると、全体平均でプラス 0.26 と大きく伸びています。基本目標単位では、「基本目標 2」が最も上昇しており、次いで「基本目標 5」となっています。

なお、最も満足度が上昇した施策は「商業振興」（2.25⇒2.82）となり、次いで「工業振興」（2.24⇒2.76）、「健康づくり」（2.42⇒2.92）、「防災対策」（2.12⇒2.62）となっています。

一方、全体の中で満足度が低下した施策は、「出産・子育て支援」（2.69⇒2.64）と「農業振興」（3.18⇒3.17）の 2 種となりました。特に、「出産・子育て支援」の重要度は、全施策中「生活環境」と並んで最も高く、重点的な対策が求められます。

◆重要度の推移

重要度の推移を全体でみると、全体平均でプラス 0.12 と伸びています。基本目標単位では、「基本目標 3」が最も上昇しており、次いで「基本目標 1」となっています。

なお、最も重要度が上昇した施策は「自然エネルギーの普及」（3.05⇒3.34）となり、次いで「工業振興」（3.14⇒3.40）、「男女共同参画」（3.27⇒3.52）、「自然環境」（3.47⇒3.71）となっています。

一方、重要度が低下した施策はありませんでした。

◆満足度と重要度のギャップ（R4 重要度－R4 満足度）

市民の期待と実際の成果のギャップが大きい施策分野を特定するため、満足度と重要度の乖離を数値化しました。※（ギャップ＝R4 重要度－R4 満足度）←数値が大きいほどギャップ大

満足度と重要度のギャップを全体でみると、平均で 0.80 となりました。最も数値が大きい施策は「公共交通網」（1.42）となり、次いで「性的マイノリティ」（1.33）、「防犯対策」（1.27）、「生活困窮者支援」（1.24）、「障がい者福祉」（1.22）となっています。ギャップが大きい施策については、原因を特定するとともに、対応策を優先的に検討していく必要があります。

なお、満足度と重要度のギャップが小さい施策は、「地域ブランド」（0.33）、「広報誌」（0.33）、「シビックプライド」（0.35）、「伝統・文化」（0.37）となっています。

基本目標単位に着目すると、満足度と重要度のギャップが最も大きい基本目標は「基本目標 1」（1.04）となり、次いで「基本目標 4」（0.99）が続きます。

（施策指標の評価）

各基本目標に紐づく施策で設定した指標の達成率を基本目標単位で以下のとおり集計しました。

◆基本目標ごとの指標の達成率と評価

基本目標	平均指標達成率	A評価の数	B評価の数	C評価の数
基本目標 1「いきいきと健康に暮らせるまち」	76%	6	3	7
基本目標 2「魅力ある産業を維持・創造するまち」	81%	7	4	3
基本目標 3「自然環境を大切にするまち」	88%	4	0	3
基本目標 4「安全・安心で快適なまち」	86%	6	6	5
基本目標 5「学び合い人と文化を育むまち」	61%	2	1	9
経営方針 「計画の実現に向けて」	78%	4	2	2
合計	78%	29	16	29

◆計算方法と評価基準

【達成率の計算】
実績値÷目標 ※達成率が 100%を超えた指標は一律 100%で計算
【評価基準】
A評価＝目標値を達成
B評価＝目標値は未達成だが、設定時（H29）以上の数値
C評価＝目標値は未達成かつ、設定時（H29）未満の数値

指標の達成率をみると、指標の平均達成率が最も高かった指標は「基本目標 3」（88％）であり、次いで「基本目標 4」（86％）となりました。

なお、「基本目標 3」に係る指標の中で達成率が 100％であったものは、「環境美化活動団体数」、「環境美化活動参加者数」、「人為的な地下水涵養量」、「資源物排出量」となっています。

また、「基本目標 4」に係る指標の中で達成率が 100％であったものは、「土砂災害危険個所存在区における避難体制づくりの取組率」、「市内の交通事故（人身事故）発生件数の増減率」、「市内の刑法犯認知件数」、「耐震診断戸数」、「耐震改修戸数」、「移住支援による移住者数（累計）」となりました。

一方、達成率が 50%以下となった指標が全体のうち 2 割弱ありました。これらの指標は新型コロナの影響を受けたと思われるものが多く、例として「夜間急病センター受診者数」、「観光消費額」、「外国人宿泊者数」、「防災訓練参加者数」、「友好都市との交流事業数」などが挙げられます。

基本目標の中で、最も指標達成率が低かった「基本目標 5」については、学校行事や交流行事の中止・縮小など、コロナ禍による影響が特に大きかったことが一因と考えられます。

コロナ禍により影響を受けた指標は、「観光消費額」などの経済的な指標だけでなく、地域活動や講座参加者数といった市内での活動も停滞する結果となっています。アフターコロナの中でいかにリスタートを切り、速やかにコロナ前の水準へ回復させ、伸ばしていくかが重要になります。

基本目標1 いきいきと健康に暮らせるまち

誰もが生きる喜びを感じ、住み慣れた地域でいきいきと健康に暮らせるまちをつくります。

（１）市民意識調査の結果

分野	質問内容	H28満足度 ポイント	R4満足度 ポイント	満足度 の差	H28重要度 ポイント	R4重要度 ポイント	重要度 の差	R4重要度－ R4満足度
健康づくり	健康づくりに取り組みやすい環境が整っている	2.42	2.92	0.50	3.37	3.53	0.16	0.61
医療体制	医療体制が整っている	2.59	2.91	0.32	3.52	3.74	0.22	0.83
障がい者福祉	障がい者が安心して生活していける地域である	2.11	2.38	0.27	3.49	3.60	0.11	1.22
高齢者福祉	高齢者が生きがいを感じ、質の高い豊かな暮らしができる環境が整っている	2.14	2.44	0.30	3.45	3.59	0.14	1.15
介護支援	高齢者が住みなれた地域で介護サービスを受け、介護予防に取り組む環境が整っている	2.35	2.58	0.23	3.51	3.63	0.12	1.05
生活困窮者支援	生活に困ったときに相談できる体制が整っている	2.04	2.38	0.34	3.45	3.62	0.17	1.24
男女共同参画	性別に関わらず、能力を発揮できる地域である	2.09	2.33	0.24	3.27	3.52	0.25	1.19
多様性の尊重	互いの個性や立場を尊重している地域である	2.16	2.39	0.23	3.27	3.50	0.23	1.11
性的マイノリティ	性的マイノリティの方への配慮がなされている地域である		2.06			3.39		1.33
地域福祉	地域において、支え合える関係が築けている	2.24	2.54	0.30	3.27	3.44	0.17	0.90
出産・子育て支援	出産、子育てしやすい地域である	2.69	2.64	-0.05	3.57	3.76	0.19	1.12
基本目標1 平均		2.28	2.55	0.27	3.38	3.59	0.12	1.04

◆満足度

満足度の差（推移）をみると、「健康づくり」の満足度の伸びが0.50と最も高く、次いで「生活困窮者支援」が0.34、「医療体制」が0.32と続きます。「基本目標1」に関する分野は、H28時は総じて満足度が低い傾向でしたが、多くの分野で高い伸びがみられます。

一方、「出産・子育て支援」の満足度は0.05低下しています。「出産・子育て支援」の重要度はR4時の全分野中で最も高く、満足度と重要度のギャップも1.12と高い水準にあり、満足度の低下を招く原因の把握及び満足度向上につながる施策の展開が必要です。

また、「性的マイノリティ」の満足度は全施策中最も低く、重点的な対応が求められます。

◆重要度

重要度の差（推移）をみると、「男女共同参画」が0.25と最も増加幅が高く、次いで「多様性の尊重」が0.23、「医療体制」が0.22と続きます。この結果から、共生社会づくりへの関心の高まりがみられます。また、「医療体制」に対する重要度の高まりは、新型コロナの影響が推察されます。

◆満足度と重要度のギャップ（R4重要度－R4満足度）

満足度と重要度が最も乖離している分野は「性的マイノリティ」であり、その差は1.33となりました。次いで「生活困窮者支援」が1.24、「障がい福祉」が1.22と続きます。

「基本目標1」の分野は、満足度と重要度の乖離が最も高い状況にあります。特に「障がい者福祉」、「高齢者福祉」、「生活困窮者支援」、「出産・子育て支援」「共生社会」に関する乖離が大きく、必要な施策を検討・展開していく必要があります。

（２）数値目標の達成状況

基本施策名称	指標名称	設定時	目標値	指標達成率	達成度	H30	R1	R2	R3	R4
健康づくりの推進	各種がん検診受診率	22.8	50	47%	B	22.5	22.5	28.5	21.1	23.4
	特定健康診査受診率	47	58	82%	C	48.2	47.9	40.8	45.7	47.4
	特定保健指導実施率	41.6	58	100%	A	52.3	54.6	63.9	53.9	60.2
地域医療の充実	夜間急病センター受診者数	1788	1800	13%	C	1532	1258	238	261	228
高齢者福祉の充実	健康長寿のまちづくり推進事業補助金交付団体数	38	60	100%	A	72	78	75	80	80
	介護予防のための自主活動グループ数	201	235	100%	A	217	219	255	256	268
障がい者福祉の充実	障がい者の一般就労移行者数	11	18	72%	B	10	6	5	6	13
	地域生活への移行者数	3	5	0%	C	3	0	1	0	0
	圏域内基幹相談支援センター数	0	1	100%	A	0	0	1	1	4
生活困窮者への支援	生活困窮者に対する相談支援件数	286	362	89%	B	311	330	842	431	322
人権の尊重	審議会・委員会などに占める女性委員の割合	26.6	35	73%	C	28.1	28.7	28.3	27.6	25.5
地域福祉の推進	避難行動要支援者名簿提供同意率	77.6	100	69%	C	75.9	75.8	64	62	69
	ボランティア登録者数	3897	4000	66%	C	3484	3639	3426	3190	2643
出産・子育て支援の充実	信州型自然保育を受ける児童の割合	52	54	100%	A	55	57.9	56.4	58.1	66.6
	教育・保育における認可施設数	23	29	100%	A	29	29	29	31	31
	乳幼児健診受診率	98.4	99	99%	C	98.6	98.1	97	98.6	98.2

※A評価＝目標を達成 B評価＝目標値は未達成だが、設定時（H29）より改善 C評価＝目標値は未達成、かつ設定時（H29）より後退

◆基本目標の評価

「基本目標1」の中でC評価となった指標をみると、「特定健康診査受診率」、「夜間急病センター受診者数」、「地域生活への移行者数」、「審議会・委員会などに占める女性委員の割合」、「避難行動要支援者名簿提供同意率」、「ボランティア登録者数」、「乳幼児健診受診率」の7つとなりました。

「基本目標1」に関する複数の指標で新型コロナの影響を受けていると推察されます。

中でも、新型コロナの影響を受けたと考えられる「夜間急病センター受診者数」は、令和2年度から急減し、以降停滞しています。また、「避難行動要支援者名簿提供同意率」や「ボランティア登録者数」なども新型コロナの影響が色濃くうかがえます。

また、「審議会・委員会などに占める女性委員の割合」は目標達成に至りませんでした。安曇野市では令和4年度に「多様性を尊重し合う共生社会づくり計画」を策定しており、男女共同参画や性の多様性の尊重、多文化共生、ユニバーサルデザインのまちづくりを一体的に進めています。

市民意識調査における「性的マイノリティ」や「男女共同参画」といった分野に対する満足度と重要度のギャップを埋めるべく、今後の重点的な取組が求められます。

基本目標２ 魅力ある産業を維持・創造するまち

足腰の強い魅力ある産業を創造し、活力にあふれた賑わいのあるまちをつくります。

（１）市民意識調査の結果

分野	質問内容	H28満足度 ポイント	R4満足度 ポイント	満足度 の差	H28重要度 ポイント	R4重要度 ポイント	重要度 の差	R4重要度－ R4満足度
農業振興	地域内で、安全で質の高い農産物が生産されている	3.18	3.17	-0.01	3.56	3.59	0.03	0.42
商業振興	市内に個性的で魅力的なお店が増えている	2.25	2.82	0.57	3.30	3.40	0.10	0.58
工業振興	工業・製造業が盛んな地域である	2.24	2.76	0.52	3.14	3.40	0.26	0.64
労働・雇用環境	働きやすい地域である	2.28	2.65	0.37	3.44	3.57	0.13	0.92
観光振興	安曇野市は魅力的な観光地である	3.09	3.13	0.04	3.58	3.61	0.03	0.48
特産品の創出	安曇野らしい産品が生み出されている	2.64	2.98	0.34	3.50	3.53	0.03	0.55
地域ブランド	全国的に「安曇野市」の地名が知られている		3.18			3.51		0.33
基本目標２ 平均		2.61	2.92	0.31	3.42	3.52	0.10	0.60

◆満足度

満足度の差（推移）をみると、「商業振興」の満足度の伸びが0.57と最も高く、次いで「工業振興」が0.52、「労働・雇用環境」が0.37と続きます。R4時に大きく伸びた前述の3分野は、H28時には全体の中でも下位に位置していましたが、R4時は全体平均を上回る伸びとなっています。

「基本目標２」は、全基本目標の中で最も満足度が向上しており、前述の3分野が大きな要因となっています。

なお、「農業振興」の満足度は0.01低下していますが、依然高い水準を維持しており、「地域ブランド」、「観光振興」と並んで全分野の中でも上位に位置しています。

◆重要度

重要度の差（推移）をみると、「工業振興」が0.26と最も増加幅が高く、次いで「労働・雇用環境」が0.13、「商業振興」が0.10と続きます。

◆満足度と重要度のギャップ（R4重要度－R4満足度）

満足度と重要度が最も乖離している分野は「労働・雇用環境」であり、その差は0.92となりました。「労働・雇用環境」の改善は、市の人口や活力を維持するうえで欠かせない分野であり、「商業振興」や「工業振興」とも大きな相関があると考えられます。特に、働き手の中でも若者をいかに確保していくかが重要であり、移住定住や学校教育といった部局と連動して取り組んでいく必要があります。

なお、「基本目標２」の分野を全体的にみると、満足度と重要度の乖離は、2番目に低くなっています。

（２）数値目標の達成状況

基本施策名称		指標名称		設定時	目標値	指標達成率	達成度	H30	R1	R2	R3	R4
農業の振興	認定農業者数			267	270	100%	A	280	283	272	295	289
	集落営農組織数			27	28	96%	B	27	27	27	27	27
林業の振興	林業従事者数			53	57	96%	B	53	51	45	47	55
	林内路網			30	31.7	100%	A	30.3	30.6	32.5	33.2	33.6
水を活用した産業の振興	わさび栽培面積			31.3	33	97%	B	31.2	32	32	32	32
	安曇野わさびの地理的表示（GI）取得数			0	1	0%	C	0	0	0	0	0
商業の振興	新規起業家数			6	10	100%	B	17	13	7	6	10
	創業支援・人材育成セミナー受講者数			20	20	100%	A	31	17	30	36	32
工業の振興	企業誘致数（累計）			4	6	100%	A	5	7	9	11	11
労働・雇用対策の推進	勤労者互助会の会員数			1214	1300	100%	A	1401	1517	1504	1487	1520
観光の振興	観光消費額			113	188	50%	C	122	126	67	72	94
	外国人宿泊者数			15000	25000	0.3%	C	23374	30515	1050	64	公表待ち
戦略的な地域ブランドの創出	異業種連携による起業家数（商品数）（累計）			4	10	100%	A	12	12	12	12	18
安曇野ブランド発信の強化	海外輸出農産品（累計）			1	3	100%	A	1	3	3	3	3

※A評価＝目標を達成 B評価＝目標値は未達成だが、設定時（H29）より改善 C評価＝目標値は未達成、かつ設定時（H29）より後退

◆基本施策の評価

「基本目標２」の中でC評価となった指標をみると、「安曇野わさびの地理的表示（GI）取得数」、「観光消費額」、「外国人宿泊者数」の3つとなりました。

新型コロナは特に観光分野で多大な影響を与え、「観光消費額」や「外国人宿泊者数」は、移動の自粛要請やインバウンドの激減を受け、令和2年度から目標値を大きく下回る結果となりました。

このような中、「外国人宿泊者数」に着目すると、コロナ禍が世界的に区切りを迎えてインバウンドが急増している中、いかに安曇野を海外から認知してもらい、インバウンドから選ばれる観光地としてプロモーションの充実や受入体制の拡充を進めていく必要があります。

なお、「安曇野わさびの地理的表示（GI）取得数」に関して、前期基本計画期間中では、当時の取得条件の厳しさもあり、GI取得には至りませんでした。今後は、関係者との合意形成を図りつつ、GI取得に向けた検討・取組を進めていきます。

工業に関しては、「企業誘致数（累計）」は、令和3年度はあづみ野産業団地を拡張したことで、市外から新たに2企業を誘致に至っています。

基本目標3 自然環境を大切にすまち

豊かで美しい自然環境を守り、快適な生活環境を次代につなぐまちをつくります。

（１）市民意識調査の結果

分野	質問内容	H28満足度 ポイント	R4満足度 ポイント	満足度 の差	H28重要度 ポイント	R4重要度 ポイント	重要度 の差	R4重要度－ R4満足度
自然環境	河川、山林などの自然環境が保全されている	2.80	3.01	0.21	3.47	3.71	0.24	0.70
生活環境	きれいな水、澄んだ空気など、良好な生活環境が保たれている	3.15	3.25	0.10	3.57	3.76	0.19	0.51
自然エネルギーの普及	太陽光発電などの自然エネルギーが普及している	2.14	2.27	0.13	3.05	3.34	0.29	1.07
ごみの減量	ごみのリサイクルや分別などにより、減量が進んでいる	2.72	2.97	0.25	3.47	3.60	0.13	0.63
基本目標3 平均		2.70	2.88	0.17	3.39	3.60	0.21	0.73

◆満足度

満足度の差（推移）をみると、「ごみの減量」の満足度の伸びが0.29と最も大きく、次いで「自然環境」が0.21と続きます。

また、「生活環境」については、満足度の数値がR4時で最も高い分野となっています。

なお、「自然エネルギーの普及」の満足度は向上していますが、その満足度の数値は全分野の中でも下位に位置しています。

◆重要度

重要度の差（推移）をみると、「自然エネルギーの普及」が0.29と最も増加幅が高く、次いで「自然環境」が0.24と続きます。なお、「基本目標3」の重要度の増加幅は、基本目標の中で最も高くなっています。

また、「基本目標3」の分野の中でも、「生活環境」の重要度は「出産・子育て支援」と並び、全分野の中で最も高くなっています。

◆満足度と重要度のギャップ（R4重要度－R4満足度）

満足度と重要度が最も乖離している分野は「自然エネルギーの普及」であり、その差は1.07となりました。安曇野市は令和4年度に「安曇野ゼロカーボンシティ宣言」を表明しており、実現に向けた取組を一層進めていくとともに、市民意識の高揚を図っていく必要があります。

（２）数値目標の達成状況

基本施策名称	指標名称	設定時	目標値	指標達成率	達成度	H30	R1	R2	R3	R4
自然環境の保全	環境学習の参加者数	248	300	51%	C	329	354	127	162	153
	特定外来生物駆除活動の参加者数	7790	8000	75%	C	6923	7194	3068	4551	6007
快適な生活環境の創造	環境美化活動団体数	217	277	100%	A	307	334	358	441	434
	環境美化活動参加者数	34187	36000	100%	A	42538	40498	35008	42745	46175
水環境の保全・強化・活用	人為的な地下水涵養量	112.8	180	100%	A	32.4	39.6	114.4	181.1	219
環境負荷の軽減	1人1日あたりのごみ排出量	787	736	90%	C	778	777	801	811	821
	資源物排出量	3354	3142	100%	A	2719	2510	2547	2532	2305
地球温暖化対策の推進	温室効果ガス総排出量（市所有施設）	19885598	前年比-1.0%		－	19663953	19129828	18267139	18254499	18509655

※A評価＝目標を達成 B評価＝目標値は未達成だが、設定時（H29）より改善 C評価＝目標値は未達成、かつ設定時（H29）より後退

◆基本施策の評価

「基本施策3」の中でC評価となった指標をみると、「環境学習の参加者数」、「特定外来生物駆除活動の参加者数」、「1人1日あたりのごみ排出量」となりました。

新型コロナの影響は、「基本目標3」においては相対的に影響が小さかったといえますが、「環境学習の参加者数」や「特定外来生物駆除活動の参加者数」については、新型コロナにより参加者数を縮減して学習会やイベントを行ったため、目標値には達しませんでした。

また、「1人1日あたりのごみ排出量」について、コロナ禍における在宅時間の増加などの影響に加え、穂高クリーンセンター新焼却施設稼働に伴い可燃性粗大ごみの受け入れを新たに開始したことが排出量の増加の要因として考えられます。

地球温暖化対策に関して、令和4年度に「安曇野ゼロカーボンシティ宣言」を表明しています。しかし、施策指標として設定している「温室効果ガス総排出量（市所有施設）」は、前年度比1.0%以上の削減を目標としていましたが、コロナによる影響がありながらも、様々な活動が復活したこともあり、目標値には至りませんでした。

安曇野市の特色は、豊かな自然が豊富にありながら、利便性を併せ持っているところにあります。この恵まれた環境は、住み心地の良さに繋がっており、定住意向の高さや人口移動における社会動態（転入者－転出者の差）がプラスで推移し続けていることなど、様々な分野との相関が考えられます。

基本目標4 安全・安心で快適なまち

安全・安心で、一人ひとりが心穏やかに暮らせる快適なまちをつくります。

（１）市民意識調査の結果

分野	質問内容	H28満足度 ポイント	R4満足度 ポイント	満足度 の差	H28重要度 ポイント	R4重要度 ポイント	重要度 の差	R4重要度－ R4満足度
防災対策	地域において、地震や台風などへの備えができていますか	2.12	2.62	0.50	3.56	3.71	0.15	1.09
交通安全	交通安全の取り組みが行われていると思いますか	2.49	2.71	0.22	3.46	3.61	0.15	0.90
防犯対策	防犯対策が行われていると思いますか	2.16	2.39	0.23	3.52	3.66	0.14	1.27
消費者保護	特殊詐欺など、消費者被害の防止に向けた取り組みが行われていると思いますか	2.38	2.54	0.16	3.50	3.64	0.14	1.10
市街地整備	市街地は道路等が整備されており、快適であると思いますか	2.22	2.56	0.34	3.47	3.53	0.06	0.97
計画的な土地利用	周囲の自然や農地とのバランスの取れた開発が進められていると思いますか	2.36	2.67	0.31	3.35	3.50	0.15	0.83
景観保全	安曇野らしい景観が保全されていると思いますか	2.78	2.95	0.17	3.51	3.58	0.07	0.63
緑化保全	緑化の保全、普及が進められていると思いますか		2.81			3.51		0.70
公園・緑地整備	公園、緑地の整備・維持管理がされていると思いますか	2.65	2.82	0.17	3.45	3.46	0.01	0.64
シビックプライド	市外在住者に誇ることのできる地域であると思いますか		3.17			3.52		0.35
移住・定住	移住者、定住者が多く活気のあるまちであると思いますか		2.90			3.32		0.42
幹線道路の整備	国道、県道などの幹線道路が整備されていると思いますか	2.38	2.56	0.18	3.45	3.52	0.07	0.96
生活道路の整備	生活道路である市道が整備されていると思いますか	2.26	2.43	0.17	3.47	3.56	0.09	1.13
公共交通網	公共交通網が整備されていると思いますか	1.99	2.15	0.16	3.49	3.57	0.08	1.42
基本目標4 平均		2.34	2.58	0.24	3.48	3.58	0.10	0.99

◆満足度

満足度の差（推移）をみると、「防災対策」の満足度の伸びが0.50と最も大きく、次いで「市街地整備」が0.34、「計画的な土地利用」が0.31と続きます。

特に「防災対策」に関しては、全分野の中で伸び率が高く、地域の自主防災組織の支援や市民参加型の防災訓練の実施、宿泊施設との連携協定の締結、防災無線の整備などの取組が寄与していると考えられます。

◆重要度

重要度の差（推移）をみると、最も増加幅が大きい分野が「防災対策」、「交通安全」、「計画的な土地利用」となり、いずれも0.15増加となりました。

◆満足度と重要度のギャップ（R4重要度－R4満足度）

満足度と重要度が最も乖離している分野は「公共交通網」であり、その差は1.42となりました。次いで、「防犯対策」が1.27、「生活道路の整備」が1.13と続きます。

特に「公共交通網」は、全分野中最もギャップが大きくなっています。公共交通の充実は、地方における共通課題でもあります。安曇野市の特性に応じたデマンド交通の機能拡充や新たな技術やビジネスモデルの導入の検討を進め、満足度の向上を図っていく必要があります。

（２）数値目標の達成状況

基本施策名称	指標名称	設定時	目標値	指標達成率	達成度	H30	R1	R2	R3	R4
防災体制の充実	防災訓練参加者数	9294	12000	34%	C	8143	2554	2093	2546	4077
消防・救急体制の充実	消防団協力事業所表示制度における協力事業所数	51	65	80%	B	50	54	49	51	52
治山・治水事業の推進	土砂災害危険箇所存在区における避難体制づくりの取組率	12	48.5	100%	A	37.5	43.8	43.8	43.8	50
防犯・交通安全の推進	市内の交通事故（人身事故）発生件数の増減率	-1.1	-1.1	100%	A	-2.3	-2.8	-4.5	-3.5	-4.3
	市内の刑法犯認知件数	469	378	100%	A	350	318	324	187	282
消費者保護の推進	消費者講座回数	13	15	47%	C	12	10	2	1	7
	消費者講座参加者数	437	500	62%	C	456	252	36	4	309
秩序あるまちづくりの推進	都市計画道路整備率	33.4	35.4	93.5%	C	35.4	35.4	36.1	33.1	33.1
景観の保全と育成の推進	景観づくり講座開催回数	0	5	60%	B	1	1	1	2	3
良質な住環境の整備	耐震診断戸数	534	1094	100%	A	992	1020	1044	1065	1109
	耐震改修戸数	102	192	100%	A	146	166	178	187	198
安定した水道・下水道事業の運営	主要管路耐震化率	22.5	49.9	92%	B	25.8	29.8	32.2	36.8	45.8
	水洗化率	81.9	88.9	99%	B	84.6	85.3	86.3	87	87.9
移住・定住の促進	移住支援による移住者数（累計）	20	60	100%	A	91	132	138	175	151
道路整備の推進	市道舗装率	75.6	77.5	99%	B	76.2	76.5	76.7	76.7	76.9
	歩道整備率（改良済5.5m以上）	70.5	72.7	97.1%	B	69.4	70	70.4	70.5	70.6
公共交通の充実	「あづみん（デマンド交通）」の利用者数	85365	88000	92%	C	86273	86681	75970	78975	80554

※A評価＝目標を達成 B評価＝目標値は未達成だが、設定時（H29）より改善 C評価＝目標値は未達成、かつ設定時（H29）より後退

◆基本施策の評価

「基本施策4」の中でC評価となった指標をみると、「防災訓練参加者数」、「消費者講座回数」、「消費者講座参加者数」、「都市計画道路整備率」、「あづみん（デマンド交通）の利用者数」の5つとなり、新型コロナの影響を受けたと思われる指標は一定数見受けられました。

また、A評価となった指標のうち、「市内の交通事故（人身事故）発生件数の増減率」、「市内の刑法犯認知件数」、「移住支援による移住者数（累計）」は、大きく目標値を上回る結果となりました。

中でも、「移住支援による移住者数（累計）」について、「安曇野市第2次まち・ひと・しごと創生総合戦略」の数値目標である社会動態の令和4年度の目標値が300人であるのに対し、実績値は574人と大きく上回っており、目標値達成に寄与していると考えられます。

基本目標5

学び合い 人と文化を育むまち

人と人が幅広く活発に交流し、豊かな人間性と文化を育むまちをつくります。

(1) 市民意識調査の結果

分野	質問内容	H28満足度 ポイント	R4満足度 ポイント	満足度 の差	H28重要度 ポイント	R4重要度 ポイント	重要度 の差	R4重要度－ R4満足度
学校教育の 充実	小中学校での教育が充実している	2.67	2.91	0.24	3.51	3.66	0.15	0.75
学校と地域・ 家庭の連携	小中学校と地域・家庭の連携が図れている	2.60	2.85	0.25	3.44	3.59	0.15	0.74
スポーツ	スポーツを楽しめる環境が整っている	2.44	2.81	0.37	3.34	3.35	0.01	0.54
アウトドア	アウトドアを楽しめる環境が整っている		2.83			3.33		0.50
生涯学習	年代に関わらず、学びの機会が提供されている	2.35	2.63	0.28	3.32	3.49	0.17	0.86
伝統・文化	地域の伝統や文化の保存・活用が行われている	2.82	2.92	0.10	3.25	3.29	0.04	0.37
文化・芸術	文化・芸術を気軽に楽しめる環境が整っている	2.46	2.84	0.38	3.22	3.29	0.07	0.45
基本目標5 平均		2.52	2.80	0.28	3.28	3.36	0.07	0.56

◆満足度

満足度の差（推移）をみると、「文化・芸術」の満足度の伸びが0.38と最も大きく、次いで「スポーツ」が0.37、「生涯学習」が0.28と続きます。

「基本目標5」の満足度のほとんどが大幅に増加しており、基本目標の中でも満足度の伸び率が最も高くなっています。

◆重要度

重要度の差（推移）をみると、「生涯学習」が0.17と最も増加幅が高く、次いで「学校教育」と「学校と地域・家庭の連携」がともに0.15と続きます。なお、「基本目標5」の重要度の増加幅は、基本目標の中で最も緩やかになっています。

また、「基本目標3」の分野の中でも、「生活環境」の重要度は「出産・子育て支援」と並び、全分野の中で最も高くなっています。

◆満足度と重要度のギャップ（R4 重要度－R4 満足度）

満足度と重要度が最も乖離している分野は「生涯学習」であり、その差は0.86となりました。次いで「学校教育」が0.75、「学校と地域・家庭の連携」が0.74と続きます。

特に、「生涯学習」については、重要度の伸びが「基本目標5」の中で最も高くなっており、市民の学習や交流の場づくりの支援が一層重要になります。

(2) 数値目標の達成状況

基本施策名称	指標名称	設定時	目標値	指標達成率	達成度	H30	R1	R2	R3	R4
学校教育の充実	不登校の割合	1.3	0.5	11%	C	1.9	2	2.6	3.4	4.5
	学習支援等ボランティア登録数	400	600	31%	C	–	153	163	171	185
青少年の健全育成	放課後子ども教室登録率	18.5	20	100%	A	20.6	20.9	19.5	22	27.4
	青少年体験型講座数及びリーダー養成講座数	17	26	58%	C	17	16	15	15	15
生涯学習の推進	生涯学習講座参加者数	22674	23000	54%	C	22339	21138	7313	11668	12416
	図書館利用者数	212808	228000	82%	C	233119	237305	190239	191229	186706
スポーツ活動の充実	県・国レベルのスポーツ大会の開催件数	38	40	98%	B	36	26	16	21	39
	体育施設利用者数	666494	700000	100%	A	746512	816369	540328	353573	701393
芸術文化活動の推進	芸術・文化講座などの参加者数	14844	15000	90%	C	14609	13556	4026	8028	13523
	美術館・博物館などの入場者数	78096	80000	83%	C	70892	64822	28628	47540	66396
交流活動の推進	市民団体が主催する国際交流事業数	5	7	14%	C	8	8	2	1	1
	市民団体が主催する国内友好交流都市などとの交流事業数	6	8	13%	C	27	30	1	0	1

※A評価＝目標を達成 B評価＝目標値は未達成だが、設定時（H29）より改善 C評価＝目標値は未達成、かつ設定時（H29）より後退

◆基本施策の評価

「基本施策5」の中でC評価となった指標をみると、「不登校の割合」、「学習支援等ボランティア登録数」、「青少年体験型講座数及びリーダー養成講座数」、「生涯学習講座参加者数」、「図書館利用者数」、「芸術・文化講座などの参加者数」、「美術館・博物館などの入場者数」、「市民団体が主催する国際交流事業数」、「市民団体が主催する国内友好交流都市などとの交流事業数」の計9つの指標が該当しています。これら多くの指標が新型コロナの影響を受けているとみられます。

中でも「生涯学習講座参加者数」について、講座の参加者数が前年比で748人、割合にして6.4%の増加となったものの、コロナの影響もあり目標値には達しませんでした。様々な状況下で学びを継続するためにも、ICT（情報通信技術）の活用は有用といえます。今後は、ICTを活用できない方への配慮が一層重要といえます。

一方、「体育施設利用者数」や「芸術・文化講座などの参加者数」、「美術館・博物館などの入場者数」は、新型コロナの影響で令和2年度に実績値が急減しましたが、令和4年度にはコロナ禍前の水準に戻りつつあります。

スポーツについては、新総合体育館の整備やマウンテンバイクコースの整備、サイクリングコースの整備を進めてきました。文化・芸術については、安曇野市での日展開催や東京藝術大学と連携したアーティスト・イン・レジデンス（AIR）の開催により、市民が芸術に触れる機会を新たに創出しています。

6. 基本計画推進に当たっての経営方針

（１）市民意識調査の結果

分野	質問内容	H28満足度 ポイント	R4満足度 ポイント	満足度 の差	H28重要度 ポイント	R4重要度 ポイント	重要度 の差	R4重要度－ R4満足度
コミュニティ活動	地域住民によるコミュニティ活動が行われている	2.47	2.66	0.19	3.15	3.22	0.07	0.56
ボランティア活動	NPO、ボランティア活動が行われている	2.26	2.51	0.25	3.19	3.27	0.08	0.76
市民参画	まちづくりへの市民参画が進んでいる	2.10	2.37	0.27	3.20	3.26	0.06	0.89
市政情報の入手	市政に関する情報が入手しやすい	2.26	2.48	0.22	3.36	3.44	0.08	0.96
広報誌	広報紙「広報あづみの」が充実している		2.96			3.29		0.33
市のHP・SNS	市公式ホームページ、SNSが充実している		2.52			3.32		0.80
ラジオ広報	市のラジオ番組（あづみ野エフエム）が充実している		2.58			3.10		0.52
地域の情報化	情報化社会に対応した基盤が整備されている	2.04	2.46	0.42	3.32	3.44	0.12	0.98
効率的な行政運営	行政運営の効率化が図られている	2.06	2.30	0.24	3.39	3.44	0.05	1.14
SDGs達成への取組	SDGsの達成に向けて取り組んでいる地域である		2.51			3.42		0.91
経営方針 平均		2.20	2.46	0.27	3.27	3.35	0.08	0.88

◆満足度

満足度の差（推移）をみると、「地域の情報化」の満足度の伸びが0.42と最も大きく、次いで「市民参画」が0.27と続きます。

「地域の情報化」については、市民が多く立ち寄る部署にキャッシュレス決済端末を導入したことや、LINEなどSNSを活用した情報発信、ホームページの充実などの寄与が考えられます。

「経営方針」に対する満足度は、H28年時は総じて低位にありましたが、R4年時は満足度が大きく上昇している分野が多くなっています。ただ、満足度の絶対値は依然低いため、引き続き改善が重要になります。

◆重要度

重要度の差（推移）をみると、「地域の情報化」が0.12と最も増加幅が高くなりました。総じて、「経営方針」に対する重要度の伸びは緩やかになっています。

◆満足度と重要度のギャップ（R4重要度－R4満足度）

満足度と重要度が最も乖離している分野は「効率的な行財政運営」であり、その差は1.14となりました。次いで「地域の情報化」が0.98、「市政情報の入手」が0.96になりました。

中でも「広報誌」のギャップが0.33と低いのに対して、「市政情報の入手」は0.96と高くなっています。このことから、広報誌に限らず多様な情報発信の充実が求められていることがわかります。

（２）数値目標の達成状況

基本施策名称	指標名称	設定時	目標値	指標達成率	達成度	H30	R1	R2	R3	R4
協働によるまちづくりの推進	市民活動サポートセンターにおける活動団体取材件数	14	100	16%	B	8	11	35	33	16
	区への加入世帯数	28973	29300	98%	C	29009	29127	28761	28848	28635
広報・広聴の充実	市のホームページへのアクセス件数	476222	607230	97%	B	429248	578003	604344	636977	588578
	市政懇談会参加者数	567	790	12%	C	63	31	54	22	91
地域情報化の推進	電子申請・届出システム	28	30	100%	A	41	45	81	145	126
質の高い行政経営の推進	市職員の通信教育講座受講者割合	8.4	10	100%	A	10.6	12.6	13.9	16.3	14.8
健全財政の堅持	市税現年収納率	99.2	99.2	100%	A	99.3	99.3	99.3	99.5	99.42
	実質公債費比率	9.6	12.3	100%	A	9.3	9.5	9.5	9.1	8.1

※A評価＝目標を達成 B評価＝目標値は未達成だが、設定時（H29）より改善 C評価＝目標値は未達成、かつ設定時（H29）より後退

◆基本施策の評価

「経営方針」は、前期基本計画推進の基本であり、基本構想の実現に向けた基本施策としても位置付けています。各経営方針は、いずれも市政の重要課題である少子高齢化・人口減少への対処（地方創生）、そして本市の行政サービスの維持向上を企図し設定されたものになります。

「経営方針」の中でC評価となった指標をみると、「区への加入世帯数」、「市政懇談会参加者数」の2つとなりました。

中でも、「区への加入世帯数」は、ライフスタイルや価値観の多様化を背景に地域とのつながりの希薄化が進む中、区の意義や役割などについて、区とともに啓発を進めていく必要があります。

また、「市政懇談会参加者数」について、実施手法の変更（対話型、少人数化）による影響がありました。

また、「1人1日あたりのごみ排出量」について、コロナ禍における在宅時間の増加などの影響に加え、穂高クリーンセンター新焼却施設稼働に伴い可燃性粗大ごみの受け入れを新たに開始したことが、排出量の増加の要因として考えられます。

安曇野市の特色は、湧水群をはじめとする豊かな自然が豊富にありながら、利便性を併せ持っているところにあります。この恵まれた環境は、自然や生態系の維持・保全のみならず、住み心地の良さに繋がっており、全国的に人口が減少している中で、本市の社会動態がプラスで推移し続けていることに寄与していると考えられます。